

失われた井上玄徹の墓

小曾戸 洋

井上玄徹靈叟はいうまでもなく曲直瀬玄朔の高弟として知られる江戸時代前期の名医である。井上交泰院家は以後歴代にわたり法印・法眼の医師を輩出し、医界にあってその地位を保った。この初代玄徹は貞享三年八十五歳をもって江戸の地に没し、遺言によって師曲直瀬玄朔の墓地、広尾祥雲寺に葬られた（同寺は以後移転していない）。同墓は従来その歴史的価値が認識され、昭和十四年六月、東京都指定旧跡に認定されて今日に至っている。すなわち『東京都の文化財』（昭和五十四年、東京都教育委員会編）に記載され、また同寺の墓地入口に都旧跡指定の案内標額が掲げられるゆえんである。

ところが、筆者は最近この井上交泰院家の墓域を実際に検証した結果、初代玄徹の墓はすでに失われてしまっていることに気付いた。条例で指定された文化財が現実には存

在しないという事実は、看過すべからざることである。よってここに同墓域の現状と、失亡するに至った経緯を報告する。

現在、井上交泰院家の墓域は祥雲寺の墓地を入れて右側の小高い地―本堂の裏手にある。その幅約二m、奥行約三m余りの区域に現存する墓石は燈籠を含め計十二基。いまかりに中央にある石を①、それをめぐって正面から左回りに②③……⑫と名づける。それらを調査した結果は次の通りである。

①「交泰院法眼大年機叟玄徹」「宝永三丙戌歳」「七月二十九日」と刻。これは玄快の嫡子、春沢（？）一七〇六の墓石。

②石燈籠。「奉寄進 揚柳軒杉浦玄徳／交泰院法眼大年機叟玄徹靈前／宝永丙戌歳七月廿九日／道過菴丹波玄孝」と刻。これは下述の方正の実父、杉浦玄徳が春沢の靈前に寄進したもの。

③「安永五丙申年／松寿院南栄妙薫大師／五月十又二日」と刻。

④「交泰院瑩玄徹居士」「文政三庚辰年」「五月九日」

と刻。これは玄高の嫡子、玄方（一七七七〜？）の墓石。

⑤ 「瓊樹院孤敵永松大姉」「宝曆三癸酉年」「十二月二十九日」と刻。

⑥ 「寛保三癸亥歳／交泰院透翁玄徹居士／八月初三日」と刻。これは春沢の嫡子、壑庵（一六七〇〜一七四三）の墓石。

⑦ 「扇也軒活翁玄快居士」「元禄五壬申」「五月十七日」と刻。これは初代玄徹の嫡男、玄快（？〜一六九二）の墓石。

⑧ 正面に「温恭院法眼孟甫春沢□□」と刻。左右・背面にわたり、行十七字、十九行の文字がある。しかし石の表面剝離し、また下部は土中に没するため、難読の文字が少なからずある。本碑は方正の長男、方親（春沢、一七二二〜一七六一）の墓石。父に先だちて没した。

⑨ 「交泰院法眼□觀良泉□□」「寛政六甲寅年」「□月□□」と刻。これは方親にかわって方正の跡を襲った玄高（一七二三〜一七九四）の墓石。

⑩ 「交泰院法印九翁賢□」「明和元甲申年」「八月初八日」と刻。これは壑庵の嫡男、方正（一六九九〜一七六

四）の墓石。

⑪ 「自得院賢道俊良」「安永七戊戌年」「閏七月初八日」と刻。これは方正の八男で玄高の嗣となった方叔（一七五六〜一七七八）の墓石。方叔は玄高に先だったため、先述の玄方がこれを襲った。

⑫ 「智真院実相宗如大姉」「明治十三庚□□」「五月初七日」「井上方大妻」と刻。



以上より、井上交泰院家の後裔の墓はあっても、初代玄徹の墓のみは存在しないことがわかる。ではそれはいかなる経緯によるものか。

戦前、都旧跡指定の際には玄徹の墓は確かにあった（往時の写真が現存する。現在入手手続中）。現任職に聞くところによると、昭和二十八年先代住職のとき、同寺の本堂はある理由から失火して、火災を被った（現在も本堂内に焼痕を残す）。玄徹の墓は本堂に最も近い位置にあったた

め、火を浴びて割裂・倒壊。先代住職は翌二十九年に没し、同年現住職就任して本堂を修改築・再建し、井上交泰院家の墓はそのとき改めて現状の位置にまとめた、という。

右の事情は広く知られなかつたためか、都および医史学界の認識を改めるには及ばなかつた。よつて今日まで初代玄徹の墓が従来通り存在するよう誤認されてきたのである。都旧跡の指定は初代玄徹の墓石のみに対してなされたもので、後裔のものはその対象となっていない。そうである以上、今後、旧跡指定の解除はやむを得ぬところである。

(北里研究所附属東洋医学総合研究所・医史文献研究室)

北尾春圃伝補遺

安井広迪

『桑韓医談』『提耳談』『当壮庵家方口解』などの著者として知られる北尾春圃の伝記に関しては、今までにあまり正確なものがない。今回、筆者は、岐阜県養老町室原村の福源寺にある北尾家の墓域を調査し、春圃の墓碑銘より、その生没年月日を知ることができたので、その他の若干の資料と共に報告する。

北尾家の墓域は、かつては春圃三昧と呼ばれた別の位置に独立してあつたが、大正年間の区画整理の際に福源寺に移された。ここには、春圃をはじめとして、代々の北尾家の人々の墓碑が並んでいる。

春圃の墓碑はその一角にあり、その裏面には次のように刻まれている。

君諱春圃字育仁姓北尾美濃不破人北尾 信広七代之
孫父曰玄甫母鈴木氏万治二年己亥十二月五日生于室